

平成26年度 第1回生駒市子ども読書活動連絡調整会議 会議録（要約）

日 時： 平成26年7月18日（金）午後3時30分～

場 所： 図書会館 第二研修室

【参加者】 岩崎れい、森岡伸枝、平井富久子、島谷佳子、森田桂子、上西均、
奥本恵、吉尾典子、糸田恵美子、吉村茂（欠席）真銅宏

【事務局】 向田真理子、中谷知子、平澤佐千代、清水淳子、春名己容子（以上図書館）、
福山清美（生涯学習課）

1 開会

2 案件

(1) 生駒市子ども読書活動連絡調整会議の経緯

- ・平成17年3月 「生駒市子ども読書活動推進計画 伝えよう、ときどき わくわくを！」策定
- ・平成17年6月 「生駒市子ども読書活動推進計画実践会議」発足
- ・平成24年9月 「生駒市子ども読書活動連絡調整会議」として再出発
- ・主な活動：ブックスタート、対象年齢別ブックリストの発行と配布、学校図書館司書の配置他

(2) 平成26年度事業計画（案）について

◎近江兄弟社学園図書館と近江八幡市立安土図書館視察（案）について検討。

- ・近江兄弟社学園の図書館・図書室と安土図書館の施設と運営方法を視察し、定評ある児童サービスと蔵書構成に学び、本市の子ども読書活動を推進する上で参考とする。
- ・10月24日（金）実施
- ・生駒市立小・中学校の学校図書館司書も参加できるよう、関係各位の協力を求める。

(3) その他

◎参加者の意見

- ・学校図書館司書が他校の図書館を見学する機会があればいい。
- ・ボランティアの立場で学校とどう関わるか、どう協力できるのか。学校図書館がどういう観点で本を選んでいるのか知りたい。

- ・学校図書館司書が入ってから、子どもから本や図書館の話聞く機会が増えた。子どもたちがもっと気軽に使えるよう開館時間を増やしてほしい。
- ・保育園も公共図書館と協力して、絵本を充実させる等、読書環境をよりよくしたい。
- ・学力と読書の関連性が言われているが、生駒市の読書の時間は全国平均以下だった。しかし、週に1回も読書をしない中学生の割合が減り、読書機会が増えてきている。子どもたちが本を読みたいという気持ちになるようにレイアウトやディスプレイを工夫してくれる学校図書館司書の存在が大きい。子ども読書の日、秋の読書週間の各校の取り組みは市のホームページで見てもらえる。
- ・幼稚園でも読み聞かせやおはなし会をしていて、子どもの真剣な眼差しを目の当たりにしている。駅前図書室は、子育て世代には嬉しい施設。
- ・学校図書館司書の勤務は週2日。読書環境が整えられた。本選びなど、授業の学習面でもサポートしてもらえ、調べ学習に役立っている。学校図書館司書の提案で、夏休みのプールに合わせて図書館を開ける等、読書機会を増やす取り組みをしている。生駒おはなしの会に2週間に1回おはなし会をしてもらっている。公共図書館の司書にも年1回、全学年全クラスにおはなしを出前してもらっている。
- ・司書教諭はいるが、授業で忙しい。学校図書館司書の存在はありがたい。図書館のレイアウトを工夫してもらって、リピーターが増えた。忙しい受験生ほど本を読むという実感がある。夏目や川端等の古典にも挑戦させたい。
- ・本を読まない学生も手塚治虫なら読む。公共図書館にはマンガは置かないのか。
⇒スペース、予算等、公共図書館の蔵書にするについては課題が多い。
- ・学校図書館司書は、一人職場で研修機会が少ない。司書のレベルアップが課題。
- ・保護者ボランティアは、保護者の目が学校に入るというメリットがある一方、専門性がない場合、現場を任せることに危惧もある。学校図書館司書、司書教諭などが、コーディネーターとして入る必要がある。ボランティアの語り手は、質の高いおはなし会を提供している。お金をかけなくても質の高いサービスは実現できる。専門職とボランティアの住み分けが必要。
- ・誰がどうやって選ぶのか。司書や先生、選書の目のある人が選ぶことが必要。子どもに選書をそっくり任せるのは問題。学校図書館司書一人に負わせるのも責任が過重。